

現地メディア向けプレスツアーの実施

2019年9月15日、在ヨルダン日本国大使館は、ヨルダンの新聞社やテレビを招いたプレスツアーを実施しました。このプレスツアーは、日本の開発協力の成果がヨルダンのメディアで取り上げられる機会を増やし、ヨルダン政府関係者や知識層、ヨルダン国民への情報発信を強化するためのものです。近年、ヨルダン政府が観光振興に力を入れていることを踏まえ、今回のツアーは観光セクターにおける開発協力に焦点を当て、国内の主要な観光地であるペトラとカラクを訪問しました。

最初に訪れたペトラでは、ペトラ地域を管理している政府機関であるペトラ開発観光地域公社による協力も受け、プレス一行は、ペトラ遺跡とペトラ博物館の視察を行いました。ペトラ博物館は、無償資金協力「ペトラ博物館整備計画」により整備され、2019年4月に開館しました。また、ペトラでは、技術協力「コミュニティ重視型のペトラ地域観光開発プロジェクト」による観光セクターへの支援も行われています。

「博物館には、史料を展示する場所としてだけでなく、市民とコミュニティを結びつける重要な役割があり、文化的歴史的史料の保存だけでなく、史跡保護の重要性の啓発にも取り組んでいる。ペトラ博物館は、ナバタイの民の逸話や彼らの古代ペトラでの生活の様子を伝えており、特に注目すべきは、彼らが有した他の文明より優れた水管理システムである。市民がこうしたことを理解し、自らのコミュニティに誇りを持つことが重要である。」との国際協力機構（JICA）専門家による説明に、プレス一行も聞き入っていました。日本は、単なる博物館建設への支援にとどまらず、館内展示の考え方やコミュニティを巻き込んだイベントの実施など、日本における事例を参考に、博物館がペトラで果たすべき役割を伝え、ヨルダンでの具体的な取組を支援していることを、プレス一行にPRしました。



（ペトラ遺跡での当館次席へのインタビュー）



（ペトラ博物館でのJICA専門家による説明）

次に、一行はカラクを訪れ、有償資金協力「観光セクター開発事業」により整備され、技術協力「博物館活動を通じた観光振興プロジェクト」による支援を受けたカラク博物館を訪問しました。

カラク博物館でプレス一行は、来訪者が自身のスマートフォンなどを用いて簡単に展示に関する情報が得られる、二次元コードを利用した多言語による史料情報提供を体験しました。この仕組みは現在、10言語に対応しており、幅広い国籍の観光客の訪問に応えられるようになっています。また、多くの観光客がアンマンとペトラを点と点で往復してしまう中、その他の地域にも観光客がもたらす効果を波及させることが重要であり、その観点から、道中の各史跡や観光スポットを結んだ広域観光ルートとして、「王の道」ルートの形成を支援していることについても、プレス一行にPRしました。



(カラク博物館でのJICA専門家による説明)



(多言語による史料情報提供の体験)

プレスツアー後には、各紙、テレビで我が国の開発協力の取組について報道され、特に、国内の主要局であるヨルダンTVでは、3分弱にわたり当日の様子が放送されました。多くの国民が目にするテレビなどのメディアで取り上げられたことで、我が国の開発協力に対するヨルダン国民の理解も一層深まったものと思います。

(主要メディアの関連報道リンク)

・ヨルダンTV(2019年9月17日): <https://www.youtube.com/watch?v=fnl8U1QLbTU>

・ガッド紙2019年9月17日付: 「日本の開発協力プログラムを紹介するプレスツアー」

<https://alghad.com/%D8%AC%D9%88%D9%84%D8%A9-%D8%B5%D8%AD%D9%81%D9%8A%D8%A9-%D9%84%D9%84%D8%AA%D8%B9%D8%B1%D9%8A%D9%81-%D8%A8%D8%A8%D8%B1%D8%A7%D9%85%D8%AC-%D8%A7%D9%84%D8%AA%D9%86%D9%85%D9%8A%D8%A9-%D9%88%D8%A7%D9%84/>